

(原文:URL:<https://mailchi.mp/theibta/rculorsyeg-2299261>)

IBTA e-News

国際脳腫瘍ネットワーク 月刊ニュースレター

2020年9月号

【トップニュース】

IBTAによる COVID-19の調査結果がNeuro-Oncology Advances誌に発表

2020年4～5月、国際脳腫瘍ネットワーク(IBTA)は、米国神経腫瘍学会(SNO)によるCOVID-19専門委員会との連携の一環として、このパンデミックが脳腫瘍患者とその介護者に直接与えた影響に関して、脳腫瘍患者とその介護者の全世界的コミュニティにおいて最初の国際的調査を実施した。本調査の結果は現在、Neuro-Oncology Advances誌に発表されている。33カ国から患者1,459人と介護者530人からなる総計1,989人の参加者に対して調査を終えた。筆頭著者である神経外科医のMathew Voisin医師(カナダ・トロント)は次のように述べた。「本調査を通じて大量の情報が収集され、その結果、COVID-19のせいで、脳腫瘍患者とその介護者はかなり多くのストレスと不安を経験していることが明らかになりました」。詳しくは[こちら\(無料アクセス\)](#)を参照。

パキスタン脳腫瘍財団とパキスタン神経腫瘍学会(PASNO)へようこそ

2020年9月5日、第1回年次神経腫瘍シンポジウム(1ANOS)がオンラインで開催され、パキスタン神経腫瘍学会(PASNO)が立ち上げられた。PASNOは神経腫瘍学に特化したパキスタン初の科学系学会で、脳腫瘍患者や脊髄腫瘍患者のケアの改善を目的としてパキスタン内外から専門医などを集め、パキスタンにおける神経腫瘍学に関連する研究、教育、および指導に関する活動の基盤を提供する。会員は、神経科医、神経外科医、腫瘍内科医、放射線腫瘍医、放射線科医、看護師、学生、および神経腫瘍学に関心のある医療従事者であれば誰でも入会可能。

PASNOの傘下にあり、その患者や介護者向けの部門であるパキスタン脳腫瘍財団(以下、同財団)も1ANOSで立ち上げられた。同財団の使命は、パキスタンの全脳腫瘍患者に支援、教育、情報、および研究を届けることである。同財団の展望は、脳腫瘍の治療法の発見と脳腫瘍患者の生活の質の向上である。

PASNO／パキスタン脳腫瘍財団からの最新情報については、[こちら](#)をクリック、または、[PASNOのウェブサイト](#)を参照。

5-アミノレブリン酸(5-ALA、グレオラン)の高悪性度神経膠腫のガイド下外科的切除での使用をカナダ保健省が承認

カナダ保健省が高悪性度神経膠腫患者における5-アミノレブリン酸(5-ALA)と蛍光ガイド手術(FGS)の使用を承認したと発表された。5-ALA(グレオラン)は高悪性度神経膠腫細胞を青色光下で蛍光させる内服の粉末状の造影剤で、神経外科医が腫瘍をより鮮明に可視化し、かつ、腫瘍をより完全に切除することを可能にする。臨床試験のエビデンスでは、5-ALA+FGSの併用により、従来の手術と比較して、外科医は脳からより多くの腫瘍細胞を特定して切除できるようになり、その結果、腫瘍切除の改良、術後合併症の減少、および患者の転帰改善につながる事が示されている。詳しくは[こちら](#)を参照(Medexus Pharmaceuticals社プレスリリース)。オタワ地域がん財団は、5-ALAとFGSを使用する脳腫瘍患者の治療に資金を提供するために、オタワ病院に特別助成金を授与すると発表した。詳しくは[こちら](#)を参照。

欧州がん診療規約の公開

9月23日、[欧州がん機構](#)はStella Kyriakides欧州連合保健・食品安全委員のバーチャルでの立合いの下、欧州がん診療規約(以下、同規約)を公開した。同規約は、欧州の全がん患者の転帰を改善することを目的として、優れた臨床がん診療の中核的要件を示す、市民と患者中心の声明である。がん患者、患者団体(Kathy Oliver IBTA議長を含む)およびがん医療従事者からなるチームによって共同で作成された。同規約は「欧州がん患者の権利の章典」(2014年の世界対がんデーに欧州議会で発表され、権威のある2018年欧州保健賞を受賞した)に由来し、がんとの旅路における全ての段階で、がん患者に対する情報の提供と支援に重点的に取り組むものである。同規約は一連の10種の重要な包括的権利を規定しており、特に患者が可能な限り最良の転帰を達成するために医療制度に期待すべきことを示している。詳しくは[こちら](#)を参照。

【治療関連ニュース】

オプチューン関連皮膚疾患に関するガイダンスが発表

Frontiers in Oncology誌に発表された総説論文では、腫瘍治療電場(TTフィールド)療法装置オプチューンに関連する最も一般的な副作用とその管理・予防方法が検討されている。オプチューンは18時間以上／日の使用が理想的で、最も一般的な有害事象は皮膚トランスデューサ・アレイを貼付した頭皮に関連する。画像ベースの症例研究ガイドでは、こうした副作用の原因、症状、および、治療法が強調されている。詳しくは[こちら](#)を参照。

低悪性度脳腫瘍が長期の病気休暇につながる事が研究で明らかに

[Neurology](#)誌に発表された研究によると、低悪性度神経膠腫の診断から1年後、スウェーデンでは10人中3人弱しか常勤雇用されていなかった。著者らは、2005～2015年に低悪性度神経膠腫を初めて発症した18～60歳の患者381人を1,900人からなる対照群と比較した。データは、脳腫瘍のスウェーデン国家品質レジストリ、スウェーデン社会保険庁、スウェーデン社会庁、およびスウェーデン統計局から検索された。診断時の平均年齢は40歳であったが、診断から1年後の時点では、低悪性度脳神経膠腫患者の28%しか常勤雇用されておらず、患者群の52%が非常勤で働いていた。これは2年後にはそれぞれ45%と63%に増加した。著者らはリスクのある患者のリハビリテーションの必要性が早期に認識されることを期待して、職場復帰できなくなる危険因子を特定した。詳しくは[こちら](#)を参照。

低生存率がん専門委員会の報告書が診断の迅速化を提唱

英国脳腫瘍慈善基金(The Brain Tumour Charity)などの英国に拠点を置く6つのがん慈善団体の連合体である低生存率がん専門委員会(Less Survivable Cancers Taskforce)による新規報告として、報告書「[致命的ながんの格差を埋める: 早期発見、早期診断、命を救う](#)」が刊行された。本報告書は英国政府に、脳腫瘍、肝がん、肺がん、胃がん、食道がん、および膵がんの患者をできる限り確実に早期診断するために、共同での行動を取るよう要請している。総じて、これらのがんは英国における全がん死亡件数の半分を占め、後期に診断されることが多く、各がんの5年生存率は30%未満である。本報告書はCOVID-19がこの問題を悪化させている過程に着目し、政治家や政策立案者がその状況を改善する方法に関して提言している。詳しくは[こちら](#)を参照。

【研究ニュース】

再発高悪性度神経膠腫に対する再照射放射線治療は患者の生活の質を改善すると研究で報告

インドのタタ記念病院による最近の研究では、再発高悪性度神経膠腫に対して高線量再照射を受けた脳腫瘍患者における患者報告による生活の質(QOL)と日常生活動作(ADL)の一連の転帰が報告されている。患者のQOLとADLを主要評価項目とした本研究では、再照射から1年後までにQOLがほぼ安定し、ADLが改善したことが観察された。患者は、身体的、感情的、認知・社会的機能の改善、疲労の減少、およびADLにおける機能的自立度の向上を経時的に報告した。患者が報告した転帰に関する有望な結果は再発高悪性度神経膠腫の治療選択肢における標準構成要素としての再照射の適用を裏付けると著者らは述べている。詳しくは[こちら](#)(論文全文を読むには支払または／定期購読が必要)を参照。

髄芽腫に対する分子標的薬候補が研究で同定

[Nature Communications](#)誌に発表された研究では、Wntシグナル経路の活性化により、ある種の小児髄芽腫の侵襲性を低下させ、治療に対する反応を高める低分子化合物が同定された。研究者らは一連の非臨床試験で、Wntシグナル経路が最も侵襲性が高い髄芽腫(グループ3、4)では不活性であること、および、治験薬(CHIR99021)を使用するWntシグナル経路の活性化により、こうした髄芽腫は侵襲性が低下し、動物実験では生存期間が延長したことを突き止め、こうしたWntシグナル経路活性化薬が将来の分子標的薬になる可能性があることを示唆した。詳しくは[こちら](#)を参照。

脳活動の変化が脳腫瘍患者の倦怠感と関連することが研究で報告

NeuroImage: Clinical誌に発表された研究によると、脳腫瘍患者の脳活動には一定の測定可能な変化が存在し、非常に高頻度で認められ、時に消耗性の症状を呈する倦怠感の重症度と関連している。脳腫瘍患者63人(低悪性度神経膠腫、高悪性度神経膠腫、または髄膜腫)の集団が多次元倦怠感尺度(MFI-20)の質問票に記入し、機能的MRI(fMRI)による画像診断を受けたところ、倦怠感の重症度は「放浪思考」脳経路(「デフォルト・モード・ネットワーク」として知られる)の活動の増加と関連することが明らかになった。詳しくは[こちら\(全文閲覧可能\)](#)を参照。

脳腫瘍部位に直接薬物放出するために開発された専用ケイ素樹脂素材

[ACS Biomaterials Science & Engineering](#)誌に発表された論文によると、研究者らは、抗がん剤を膠芽腫部位に長期間放出するよう特別に設計された小型薬物放出ケイ素樹脂ディスクを開発した。この新規ケイ素樹脂ベースの母材は微視的チャネル(直径2 μm)を含み、長時間にわたって安定した制御された方法で抗がん剤ペイロードを放出するよう設計されている。研究者らは非臨床試験で試験薬AT-101を使用するケイ素樹脂ディスクの試験に成功したことを報告し、今後の動物実験への道筋をつけた。詳しくは[こちら](#)を参照。

膠芽腫の放射線治療に対する感受性を高めるための新規創薬標的の発見を報告

[Nature Communications](#)誌に発表された最近の論文の中で、カナダの研究者らは、膠芽腫腫瘍が放射線治療による損傷に耐えるよう促す単一遺伝子オンコスタチンM(OSM)を同定した。OSMが脳腫瘍幹細胞(腫瘍増殖を持続・促進すると考えられている細胞)のエネルギー産生に不可欠と思われる、研究者らは報告した。細胞実験と動物実験の両者において、OSMの阻害や抑制により、膠芽腫腫瘍の放射線に対する感受性が高くなり、その結果、動物の生存期間が延長した。研究者らは、OSMを抑制する治療薬に関する今後の研究を提案している。詳しくは[こちら](#)を参照。

神経腫瘍学における「ラジオゲノミクス」の将来

American Journal of Neuroradiology誌に発表された総説論文で、「ラジオゲノミクス」が今後数年の間に脳腫瘍治療において果たす役割とその実施方法が考察されている。「イメージング・ゲノミクス」としても知られるこの技術は急速に発展しており、MRI検査だけで脳腫瘍が有する遺伝的・分子的特性を予測するものである。こうしたマーカーは診断や治療計画に重要で、この「バーチャル生検」法は神経腫瘍学においてますます重要な役割を果たす可能性がある、と、本論文の著者らは述べている。詳しくは[こちら](#)を参照。

イヌを対象とするカテーテルにより神経膠腫部位に送達される抗がん細胞毒素の第1相試験がヒトを対象とする臨床試験に向けて始動

Neuro-Oncology誌に発表された研究によると、神経膠腫を有するイヌにおける新規脳腫瘍治療薬(WPD101)の第1相試験の成功により、ヒトでもこの薬剤の試験が行われる可能性がある。WPD101は神経膠腫細胞上の特定の受容体IL13RA2およびEPHA2を標的とする毒素保有分子混合物である。リアルタイムMRI監視下で腫瘍部位に小型カテーテルにより投与される(「対流強化送達(CED)」と言う)。本第1相試験で、WPD101は前回のヒトに対する用量の最大6倍の用量で忍容性が高く、試験対象のイヌの半数(16頭中8頭)で腫瘍容積が最大94%減少した。詳しくは[こちら](#)を参照。製薬企業WPD Pharmaceuticals社もプレスリリースで、ヒトでのWPD101の早期臨床試験を計画していると発表した。詳しくは[こちら\(同社プレスリリース\)](#)を参照。

血液型O型は他のABO血液型と比較して、膠芽腫における生存期間が長いと研究で判明

Journal of the College of Physicians and Surgeons Pakistan誌に発表された、2012年4月～2020年5月に膠芽腫と診断された患者238人を対象としたトルコの研究で、血液型と全生存期間の統計的関連性が明らかになった。O型の患者は他の血液型(非O型)の患者と比較して、有意に生存期間が長かった(22カ月)。全生存期間はA型で14カ月、B型で11カ月、AB型で6カ月であった。本研究の著者らは相関関係を確認し、根本原因を調査するために、さらなる研究を行うよう推奨している。詳しくは[こちら\(全文PDF記事\)](#)を参照。

【企業ニュース】

膠芽腫治療を目的とする個別化がん免疫療法DCVax-Lの第3相試験の終了が間近に迫る中、Northwest Biotherapeutics社は生産規模の拡大に向けて準備を進める

個別化がん免疫療法DCVax-Lを開発しているNorthwest Biotherapeutics社は、英国ソーストンにある製造工場で製造準備・計画の集中プログラムを強力に推進していると発表した。膠芽腫を対象としたDCVax-Lの第3相試験の終了が近づく中、製造担当者は2020年10月中旬までに第1段階の製造を完了できるように、2交代で作業を行っている。詳しくは[こちら](#) (同社プレスリリース)を参照。2つの個別の発表([こちら](#)と[こちら](#))で、Northwest Biotherapeutics社は膠芽腫を対象としたDCVax-Lの第3相試験に関する優れた臨床試験データが達成されたこと、Flaskworks社(DCVaxなどの細胞治療製品の製造量増加に役立つ技術を開発している別の企業)を買収したことを正式に発表した。

GT Medical Technologies社は転移性脳腫瘍患者を対象としたGammaTileを後押しする試験データを発表

GT Medical Technologies社は、(他の部位から脳に腫瘍が転移している)大きな脳転移のある患者を対象とする同社のGammaTile療法+腫瘍切除手術の併用療法の[臨床試験データ](#)を発表した。外科的標的放射線治療(STaRT)であるGammaTile療法では、放射線を放出するコラーゲンの「タイル」を腫瘍部位に外科的に移植する。転移性脳腫瘍に関するSNO2020バーチャル会議で発表された[データ](#)によると、16人の患者を対象とした臨床試験から、同一患者が以前に受けた一連の治療と比較して、局所病変進行までの期間(TTP)が統計学的に有意に延長していることが明らかになった。詳しくは[こちら\(同社プレスリリース\)](#)を参照。

FDAがびまん性橋膠腫を対象とするOblato社の治療薬の希少疾病指定を承認

米国食品医薬品局(FDA)はOKN-007(再発膠芽腫を対象とした第2相試験を実施中の治療薬)に対して、びまん性橋膠腫(DIPG)を対象とする希少小児疾患指定(RPDD)および悪性神経膠腫治療薬としての希少疾病用医薬品指定を行った。ニュースリリースによると、OKN-007の製造元であるOblato社は2021年にDIPG患者を対象とした臨床試験を開始する予定である。詳しくは[こちら](#)を参照。

FDAがPlus Therapeutics社のレニウム・ナトリボソーム治療薬を希少疾病用医薬品指定

FDAは再発膠芽腫治療におけるレニウム・ナトリボソーム(RNL)治療薬の希少疾病用医薬品指定を行ったとPlus Therapeutics社は発表した。RNLは放射線を放出する金属であるレニウムを含む脂質ベースの微粒子で、外科的に挿入した小型カテーテルにより腫瘍部位に直接投与される(「対流強化送達」と言う)。RNLは現在、再発膠芽腫を対象とした[第1相用量設定試験「ReSPECT」](#)が実施されている。詳しくは[こちら\(同社プレスリリース\)](#)を参照。

Gan & Lee Pharmaceutical社の経口薬GLR2007がFDAによる希少疾病用医薬品指定を取得

FDAが悪性神経膠腫の治療薬として医薬品GLR2007の希少疾病用医薬品指定を承認したこともGan & Lee Pharmaceuticals社は発表した。GLR2007は経口薬で、脳腫瘍でのがん細胞の増殖を加速させるサイクリン依存性キナーゼ4/6(CDK 4/6)を阻害する。GLR2007は現在、(膠芽腫を含む)固形がん患者を対象とした[第1相臨床試験](#)で評価されている。詳しくは[こちら\(同社プレスリリース\)](#)を参照。

【脳腫瘍コミュニティニュース】

オーストラリア製アプリ「Breathing Space(一息つける時間)」が脳腫瘍患者のコミュニティを支援

精神衛生の専門家や脳腫瘍既往歴がある人々のコミュニティを通じて、脳腫瘍患者の家族や友人が支援や指導を受けられる安全な場所を提供する無料のモバイル・アプリが公開された。オーストラリアのニューカッスル大学とハンター医学研究所の精神衛生の研究者が脳腫瘍の慈善団体である[マーク・ヒューズ財団](#)(MHF)からの技術革新助成金の支援を受けて開発したこのプロジェクトは、脳腫瘍と診断された親愛な人がいるオーストラリア人100人の募集を目指している。MHFの共同創設者であるMark Hughes氏はこのプロジェクトに関して次のように述べる。「私が初めて脳腫瘍と診断されたとき、家族はいつも私のそばにいてくれましたが、家族のそばには誰がいたのでしょうか」。詳しくは[こちら](#)を参照。

4施設が小児脳腫瘍コンソーシアムの会員に

米国を拠点とする小児の中樞神経系原発腫瘍に特化した学際的な共同研究組織である[小児脳腫瘍コンソーシアム](#)は、ダナ・ファーマーがん研究所(米国マサチューセッツ州ボストン)、トロント小児病院(カナダ・オンタリオ州トロント)、フロリダ大学(米国)、およびネイションワイド小児病院(米国オハイオ州コロンバス)の4施設が会員になったと発表した。医療施設は競争により選ばれ、1999年に設立された本コンソーシアムの会員になる。また、医療施設はそれぞれの専門知識を共有し、小児脳腫瘍の治療法の改良を目的とした新規臨床試験を開発・実施している。詳しくは[こちら](#)を参照。

新たな始まり:ミーガンの抱擁

19年にわたり、カナダを拠点とする「ミーガンの歩み:希望の輪をつくる会」は脳腫瘍の診断を受けた小児のケアを変える原動力となってきた。この地域社会に根ざした非営利団体はシックキッズ財団を介して、小児脳腫瘍の研究に580万カナダドル(約4.6億円)以上の資金を提供してきた。2020年9月1日、「ミーガンの歩み」は新しい外観と名称「ミーガンの抱擁:希望の輪をつくる会」でその第一歩を踏み出し、独立した慈善団体としての新たな始まりを示した。その使命は地域社会の力を利用して、

小児脳腫瘍研究のための啓発と資金調達を行い、小児患者とその家族のために希望を育み、転帰を改善させることである。その展望は脳腫瘍で苦しむ子供とその家族がいない世界である。新しいウェブサイトはmeaganshug.comで閲覧可能。

CERN財団がNBTSの指定プログラムに

CERN財団(以下同財団)は上衣腫患者などの生活の改善を目的とした米国を拠点とする非営利団体である。同財団は米国National Brain Tumor Society (NBTS)の指定プログラムになると発表した。公式声明で、Kimberly Wallgren氏(CERN事務局長)とDavid F. Arons氏(NBTS会長)は次のように述べた。「私たちの団体を完全に纏め上げる動きは、ワシントンD.C.での上衣腫啓発デー・イベントの共催、その次の「丘へ向かおう」運動への参加、および最近の上衣腫研究・教育基金の共同創設に始まる長年の協力関係の上に構築されたもので、全関係者によって受け入れられ、利益を得てきた関係をさらに強化し、体系化することになります」。詳しくは[こちら](#)を参照。

小児脳腫瘍に対する希少脳腫瘍コンソーシアムが新規ウェブサイトを発表

希少脳腫瘍コンソーシアム(RBTC)は新たなウェブページ開設を発表する。RBTCは発足以来、140の国際共同センターからなるネットワークに成長し、希少小児脳腫瘍患者用のより優れた治療法や診断装置の発見に重点的に取り組んでいる。こうした脳腫瘍には、非定型奇形腫様ラブドイド腫瘍(ATRT)、多層性ロゼットを有する胎児性腫瘍(ETMR)、および松果体部腫瘍(中間型松果体実質腫瘍[pineal parenchymal tumor of intermediate differentiation: PPTID]、松果体芽腫[pineoblastoma: PB])が含まれる。RBTCのウェブサイトは希少脳腫瘍の理解と治療における新たな進展に関する情報を掲載し、また、保護者や医療従事者がRBTCの登録簿に小児を登録し、世界中の臨床専門家とつながる機会も提供する。新たなウェブサイトにはアクセスするには、[こちら](#)をクリック。

【その他のニュース】

9年後、Pearl Jam ファンであるテレビキャスターが膠芽腫を克服し、夢を叶えた方法を語る

元テレビキャスターのBill Castrovence氏はWebMDで、膠芽腫と診断されて以来直面してきた多くの課題を克服してきた方法、具体的に歩行の再学習、結婚、子供が生まれたことなどの経験を語った。2011年にCastrovence氏はPearl Jamのコンサートを観に行く途中で診断を受けたが、最終的には大好きなPearl Jamのバンドを何度も観る時間を作った方法やPearl Jamが彼のために歌ってくれる機会を得たことを説明している。詳しくは[こちら](#)を参照。

【学会ニュース】

現在のCOVID-19パンデミックの影響で、世界中の多くの対面式の会議や学会が中止、延期、またはバーチャルイベントに変更されている。私たちはこのニュースに遅れを取らないように最善を尽くしているが、予定されているイベントの状況については、必ず会議主催者に確認のこと。

2020/2021年の学術会議(抜粋)

2020

10月

[第15回欧州神経腫瘍学会\(EANO\)総会](#)

現在は[ウェビナー](#)シリーズへ変更、2020年10月7日と21日、2020年11月4日、2020年12月2日と16日、2021年1月13日と27日(EANOウェビナーシリーズ、EANO会員のみ無料)

次回の対面のEANO総会は2021年にロッテルダム市、また2024年にグラスゴー市で開催予定

[脳腫瘍会議2020総会](#)

現在、2021年6月へ変更

2020年10月14～16日 以下記載の2021年の新しい日程を参照。

ポーランド ワルシャワ

[第13回神経腫瘍学共同臨床試験グループ\(COGNO\)年次学術総会](#)

現在、2021年10月へ変更

2020年10月18～20日 以下記載の2021年の新しい日程を参照。

オーストラリア メルボルン

11月

[米国神経腫瘍学会臨床試験講座](#)

バーチャルで開催

2020年11月17～18日

オンライン開催

[欧州がんサミット2020](#)

バーチャルで開催

2020年11月18～19日

オンライン開催

[第25回米国神経腫瘍学会年次総会\(SNO2020\)](#)

バーチャルで開催

2020年11月19～21日

オンライン開催

12月

[第19回国際小児脳腫瘍シンポジウム\(ISPNO2020\)](#)

ハイブリッドミーティング(オンライン＋対面) 詳細はウェブサイトを参照

2020年12月13～16日

長野県軽井沢

オンライン開催

2021

3月

[UICC 世界がん会議](#)

2021年開催予定は中止

2021年3月16～18日

~~オマーン~~ マスカット

4月

[SNO／NCI 合同シンポジウム: 中枢神経系腫瘍の代謝を標的にする](#)

2021年4月6～7日

米国 メリーランド州

[キャンサー・リサーチUKケンブリッジ・センター神経腫瘍学会議2021](#)

2021年4月19～20日

英国 ケンブリッジ

5月

[第6回世界連合神経腫瘍学会 \(WFNOS\) 総会 \(4年に1回開催\)と第18回アジア神経腫瘍学会 \(ASNO\) 総会](#)

2021年5月 6～9日 現在2022年3月24～27日へと延期

大韓民国 ソウル

6月

[2021 SNO小児科学会- 第6回小児神経腫瘍学基礎・橋渡し研究会議 \(隔年開催\)](#)

2021年6月11～12日

米国 ワシントン D.C.

[脳腫瘍会議2021総会](#)

2021年6月21～23日

ポーランド ワルシャワ

9月

第15回欧州神経腫瘍学会 (EANO) 総会

2021年9月23～26 日

オランダ ロッテルダム

10月

第13回神経腫瘍学共同臨床試験グループ (COGNO) 年次学術総会

2021年10月24～26日

オーストラリア メルボルン

11月

米国神経腫瘍学会年次学術集会 (SNO2021)

最新情報は[ウェブサイト](#)を参照

2021年11月17～21日

米国 マサチューセッツ州ボストン

2020年、2021年に開催予定の脳腫瘍患者やその擁護団体によるイベントや学術会議(バーチャルか対面かは問わず)を企画している方、ご存知の方、または上記イベントにお気づきの方は、kathy@theibta.orgまで [イベントページ](#)に掲載可能。

IBTAウェブサイトの[会議ページ](#)で、今後の学術会議やイベントの最新情報を確認のこと。

== 翻訳者：渡邊 岳 / JAMT (ジャムティ) 翻訳チーム ==

IBTA（国際脳腫瘍ネットワーク）について

私たちについて 国際脳腫瘍ネットワーク（The International Brain Tumour Alliance：IBTA）は2005年に設立されました。各国の脳腫瘍患者や介護者を代表する支援、提唱、情報グループのネットワークであり、脳腫瘍の分野で活躍する研究者、科学者、臨床医、医療関係者も参加しています。詳細は www.theibta.org をご覧ください。

ご意見をお聞かせください。IBTAコミュニティで共有したいニュースがあれば、ぜひお聞かせください。宛先：chair@theibta.org 月刊ニュースレターやホームページを通じて、ご購入者の皆様にできるだけ多くの情報を中継していく予定です。メールニュース記事の選択は、編集者の裁量で行われます。Copyright © 2020 The International Brain Tumour Alliance, All rights reserved. 無断複写・転載を禁じる。

（免責事項）国際脳腫瘍ネットワーク（IBTA）は、e-News（あるいはIBTA向け、またはIBTAに代わって作成されニュース内でリンクを提供しているすべての資料、報告書、文書、データ等）に掲載される情報が正確であるよう尽力しています。しかし、IBTAはe-News内の情報の不正確さや不備について一切の責任を負いません。また、その情報やリンク先のWebサイト情報など、第三者の情報の不正確さに起因する損失や損害についても一切の責任を負いません。このe-Newsに掲載される情報は教育のみを目的としたものであり、医療の代替となるものではなく、IBTAウェブサイト上の情報は、医療上のアドバイスや専門的サービスを提供することを意図したものではありません。医療や診察については、主治医にご相談ください。臨床試験のニュースに掲載することは、IBTAの特定の推奨を意味するものではありません。IBTA e-Newsからリンクされている他のウェブサイトは、IBTAは管理していません。したがって、その内容については一切責任を負いません。IBTAは読者の便宜のためにニュース内でリンクを提供しているものであり、リンク先のウェブサイトの情報、品質、安全性、妥当性を検証することはできません。IBTAのプロジェクトに企業が協賛することは、IBTAが特定の治療法、治療レジメン、行動の推奨を意味するものではありません。（スポンサーの詳細については、スポンサーシップ・ポリシーをご覧ください）。e-Newsに掲載されている資料の見解や意見は、必ずしも国際脳腫瘍ネットワークのものではない場合があります。